

「青戸小学校の青戸棒踊り」伝承活動の取組

1 学校名 南九州市立青戸小学校

2 学年・人数 小学4年生から6年生（計60人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

総合的な学習の時間・体育館（7月～10月）

(2) 発表の日時・場所

秋季大運動会・本校校庭（10月2日）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

青戸棒踊り（あおとぼうおどり）

(2) 由来

今からおよそ120年前、青戸の青年たちが、指宿市池田から師匠をたのんで稽古をしたのが始まりと言われている。そして、明治36年、青戸小学校高等科併設の時に祝賀会で披露されたという記録がある。その後、穎娃の青年学校や青戸中学校でも踊られていたが、しばらく途絶えてしまった。昭和44年、穎娃町役場の新築落成式に青戸の壮年団により踊りが復活され、現在に至っている。

(3) 構成等

踊りの種類は4種類ある。6尺棒踊り、3尺棒踊り、鎌踊り、長刀踊りである。それぞれ踊りや手具が異なる。子どもたちは、6尺棒踊り、3尺棒踊りを中心に練習している。また、唄については、歌詞や節回しを会得するまで時間がかかることから保存会の方をお願いしている。

5 保存会や地域との連携の具体

秋季大運動会での発表に向けて、7月から練習を開始する。講師として、青戸棒踊り保存会の皆さんを毎年お願いしている。ここ数年、運動会での棒踊りの発表が恒例になっており、校区の方も子どもたちが踊る棒踊りを楽しみにしている。保存会の方も子どもたちが棒踊りを踊ることで、運動会が盛り上がることを認識しており、とても協力的に指導していただいている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

青戸棒踊りの伝承活動では、ただ単に踊り方を学ぶだけではなく、踊りの意味や、歌の内容、時代背景についても学んでいる。練習開始初日には、保存会の会長さんに棒踊りの歴史や踊りの持つ意味合い等についての講話がある。

また、総合的な学習の時間に位置づけることにより、子どもたちが棒踊りに対する各自の課題を持ち、練習や保存会の方との交流を通して、課題解決できるような取組の工夫をしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【 練習の様子 】



【 練習の様子 】



【 秋季大運動会での発表 】



【 秋季大運動会での発表 】

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

児童は4年生になると、運動会で「棒踊り」を踊ることができるという目標を持っており、下学年の時から「棒踊り」に対するあこがれをもっている。

また、4年生以上の児童は、「棒踊り」を踊ることで、青戸の地に生まれ育ったことをとても誇りに思っている。運動会の種目の中で、いちばん楽しみにしている子どもが多い。

保護者からは、昔、自分たちが踊っていた「棒踊り」が子どもたちに受け継がれていくことに対して、とても嬉しいという感想が多く聞かれる。特に、指導に当たっている保存会の方々からは、これからも末永く教育活動の一環として「棒踊り」の継承活動に取り組んで欲しいという声が聞かれる。